

### 第3回(2008.11.20 配信)

#### 雲竹齋先生の歴史文化講座 - 「11月は勤労感謝の日」

11月23日は「勤労感謝の日」と定められて祝日となっている。

昭和23年(1948)に国民の祝日が定められた際に、「勤労を貴び、生産を祝い、互いに感謝し合う」という趣旨で制定されたものだが、そもそも、戦前まではこの日を「新嘗祭(にいなめさい)」といて、五穀豊穡、天下太平を神に祈る日と定められていた。この祭祀は国家の重要な儀式の一つで、国家最高責任者の天皇が農作物の恵みを神に感謝する式典だった。勤労感謝の日は、この新嘗祭に代わるもので、この祭りはその性格上神事の色彩が強く、その歴史背景が天皇につながるというので、あえて「勤労感謝の日」にしたものというのが衆目の一致したところである。

古代人は、「冬至」は太陽が力を衰える時期として、その復活を願っているいろいろな行事や祭りを行った。冬至は二十四節気のひとつで、一年で最も昼が短くなる日である。昔は太陽が地球の周りを回っていたと信じられていたから、太陽の通り道を「黄道」と呼んだ。これを24等分して季節を表したもので、古代人たちは太陽の力が衰えて人間の魂も仮死状態になるが、再び復活すると信じていた。これを「一陽来復」といい、太陽の復活を願った行事が行われるようになった。日本では、この日は囲炉裏の日を新たに起こすことで太陽を復活させることを現し、この火によって湯を沸かし柚を浮かべて、柚の精と新しい火の力によって人間も復活するといわれた。

この太陽の復活を祈り、五穀豊穡を感謝する祭りとが一体となったのが新嘗祭で、皇極天皇(こうぎょくてんのう、女帝、在位642~645)の時代に、旧暦の11月中旬の「卯」の日に行うようになった。冬至は、現在の暦では12月だが、旧暦では11月だからである。そして、明治6年(1874)以降11月23日が新嘗祭の日に決まった。

現在も、宮中の賢所(かしこどころ)では、古代信仰そのままの儀式が行われているが、天皇陛下が自ら米や麦などを歴代天皇家の祖先や神々にお供えになって、五穀豊穡、天下太平をお祈りになり、その後天皇陛下がお召し上がりになるという、数多い宮中の儀式の中でも非常に重要な儀式の一つだそうである。

国家の最高責任者である古代の天皇は、卑弥呼にみられるような占い師や呪術師的な面も持ち合わせていただろうから、日本が古代から農業国であり、農産物の恵みに感謝する意味と、冬至という季節の節目であることや、新しい年への期待・希望などを祈る儀式は、歴代の天皇にとって、非常に大切な儀式であったと思われる。

天皇が即位して最初の新嘗祭は、特に「大嘗祭」とよばれて、天皇即位を天下に知らしめた行事でもあったようである。そのようなところから、戦後の皇室中心の国家から民主国家に変貌するにあたって、新嘗祭を国民的行事からはずしたのだろうが、そういう意味合いからは、昭和41年(1966)に制定した「建国記念日」などは、現在でも議論のあるところだろう。

ちなみに、建国記念日は2月11日だが、戦前は「紀元節」といって大きな国家的行事が行われた。『古事記』や『日本書紀』によれば、西暦の紀元前660年に、神倭伊波礼毘古命(カムヤマトイワレヒコノミコト)が初代の天皇に即位し「神武天皇」となったが、この日を(日本の)紀元元年1月1日とした。現在の暦では2月11日にあたる。そこから紀元節という行事が行われるようになった。西暦の紀元前660年といえば縄文時代後期にあたる。卑弥呼でさえ弥生時代末期から古墳時代

である。そこから、全く根拠のない話だという学者が多い。だから建国記念日はおかしいという理屈になるが、イスラエルなどが使っているユダヤ暦は、『旧約聖書』の天地創造の話から計算して西暦の紀元前 3760 年だとしている。そのほか多くの国でも建国記念日の根拠は似たり寄ったりで、日本の場合も目くらましの立てるほどでもないという人も多い。

ここで、「西暦の紀元」とか「日本の紀元」と断っているのは、日本でも明治から戦前までは西暦のように「紀元」通称「皇紀」という名称を使っていた。

ちなみに、皇紀では今年が紀元 2668 年にあたる。また、太平洋戦争で名機とうたわれた「ゼロ戦またはレイ戦」と呼ばれる零式艦上戦闘機は、昭和 15 年(紀元 2600 年)に製作されたから、末尾の 0 を取って「零式」という制式名称がつけられた。この紀元(皇紀)も戦後意識的に使われなくなった。

ついでにいえば、暦は任意の基準となる年を「紀元」と定めるから、西暦はキリストの誕生を紀元としている。したがって、西暦とはあくまでもキリスト教徒の暦であり、ユダヤ暦あるいはイスラム暦(預言者ムハンマドがメッカを追われメディナに移住した日の西暦 622 年 7 月 16 日を元年 1 月 1 日としているから移住暦ともいう)など、それぞれに紀元という言葉が用いらてれる。そこから、神道や仏教徒の多い日本人がキリストの暦を使うのはおかしい、情けないと嘆く人もいる。

本題に話を戻すと、終戦直後の混乱した時代に制定されたための、極端に戦前の習慣を否定する風潮の犠牲が新嘗祭だ、という人もいるが、その論議はさておいて、勤労感謝の日には農業その他の恵みにも感謝する気持ちを込めて祝いたいものである。

さあ休日だあ、一日儲かったぜ、などといってごろごろしている人は、勤労感謝という意味がわからない人だから、休日をもろう資格はない。せめて外に出てゴミ拾いしたりドブ掃除したりしなさい。そうすれば、晩酌や夕餉のありがたさを多少なりともわかるに違いない。まそういっても無理か。